

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200074		
法人名	社会福祉法人 伯医会		
事業所名	グループホーム ふるさと母里		
所在地	島根県安来市伯太町東母里482番地2		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の尊厳の保持の為、自立支援の意味を考え、ご利用者の能力活かす事を常に意識したサービスを提供しています。 ・立ち上げ当初から自治会に加入し地域の方との交流や連携に努めており、ご利用者と事業所と地域が近い関係でいられるような運営を行なっています。合同で行う行事や、ボランティアなど外部からの支援が多数あります。 ・少しでも長く地域で暮らしていけるよう、介護度が重くなっても事業所で対応できる為に座ったままでも入浴可能な特殊浴槽を完備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当施設は昨年5月に開所した新しい施設である。道路から少し入った所に位置し裏には小高い山があり、前には白壁の蔵や屋敷を眺めることができ、落ち着いた色合いの和風な平屋建てで異空間に入ったような感じが味わえる。母体の法人は少し離れた場所に位置し、特別養護老人ホームとしてオープンして丸15年が経過しており、施設サービスから在宅サービスへと広がりをみせている。小規模との同時開所で今年の8月には1ユニット追加予定になっている。正規職員は少ないがシルバー人材センターを利用し、調理や見守り等で雇用して、地元職員を確保しながらサービス提供に繋げている。法人全体で、自己評価から自己研鑽へ繋がるような目標を立てるという取り組みが続けられている。仕事に直接繋がるものではない内容も求められている点は、個々のレベルアップの意識が職員全体に広がっていくような可能性を感じさせられた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ、外部の方や職員が目につくようにしている。またミーティング時には理念の唱和を行い、理念に沿ったサービス提供を心がけている	ふるさとに施設をつくりたいという法人の代表者の思いを込めた理念が作成されている。昨年5月の立ち上げの際には関係者でミーティングを繰り返し、職員間での共有に繋げている。職員会議等の場でも理念について内容を取り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会行事にも参加している。また、自治会の方を招いてのそうめん流し等の行事を実施。日々の食品は地産地消を意識し、地域の方が来やすい事業所を目指している	人形劇、大正琴、そば打ち、笹巻作り、しめ縄作り、門松作りなど多くのボランティアとの交流がある。地域の方を招いてのイベントも開催し地域に根差した施設になるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の表情や暮らしぶりを知ってもらい機会と考え、積極的にボランティア等の受入れを行い、その後に皆さんとお茶を飲んでもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、近隣住民や行政の方に情報提供や意見交換を行っている。会議で地域の文化祭出展の話を取り上げ、次年度は出展予定。	家族関係者、地域の代表者、行政の代表者等に加え協力医院のドクターの参加もあり定期的に開催している。施設の理解に繋げる試みとして、食事会の開催や認知症の勉強会も開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員として参加してもらっている。また、開設初年度の為、サービス内容の取扱いについて意見を頻りに問い合わせる健全な運営に心がけている。	毎回運営推進会議への参加があり、市が主催の研修会には自主的に参加している。いろいろな場面での交流を持ち良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初に研修を行ったが、全ての職員が正しく理解し取り組んでいるとは言えない。玄関は夜間のみ施錠している。窓も日中は施錠しない方針だが、夜間からのままで施錠されている事が多々ある。	外部研修へ参加したり内部での研修も実施している。利用者が開所当初に落ち着かずに外に出る等の行為があったため、職員内に不安が残り、昼間の施錠に繋がっているケースが見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所のコンプライアンスルール表に高齢者虐待の部分も取り入れて作成し、職員に研修、配付を行った。また、リビングにも掲示しており、目につくように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は実施しておらず、管理者を含め、職員は理解度は低いと思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者とケアマネが事前に話を行い、契約書と重要事項説明書を説明する際には、特に混乱やトラブルを招きやすい部分を丁寧に説明するよう話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談苦情窓口を設置していることを説明しているが、ご利用者やご家族の意見を聞く機会を特別に設けてはおらず、次年度からは介護相談員の受入れを実施していく。	面会時や介護保険更新時に話を聞くようにしている。毎月請求書を送る際に利用者の様子を伝えるようにして、家族からの意見を得ることとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフは年に2回面談を行い、スタッフの思いを聞き取る機会を設けている。また、チームの会議にも参加しスタッフの考えを聞くようにしている	正規職員には自己評価に業務以外の目標を設定することが決められている。自己研鑽の意味もあり業務に関連した資格取得の希望や服薬を検討するものとか、前向きな目標設定に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設1年目であり、未実施である。処遇改善は今後の重要課題と考える		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は適宜参加してもらっているが、OJTは計画的には進めておらず、職員からの疑問や要望の都度、個別で開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネは同地域の同業者との接点は研修等で確保しているが、現場スタッフはあまりその環境はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にはインテークを行い、事前情報は把握するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記とどのようにインテークを行い、意向の確認を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用当初は暫定プランとし直近の困りごとに対してサービスを提供している。また、問い合わせの段階で、意向が事業所の役割に合っているかも踏まえて話を聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、掃除、洗濯等の家事全般を出来るだけご利用者に行ってもらい、必要な部分で支援をするよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出の機会を提案したり、毎月の様子を手紙で送っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の交友関係等も情報収集し、会いに出かけたり、事業所に来てもらうよう連絡調整を行っている	「自分に帰る」機会を作るという意味で、馴染みの店での買い物や墓参りなどに出かけるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居後の生活を見て、席順やレクのメンバーの並びなど工夫をしている。気分のムラにより一人で過ごす時間を設けている方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設一年目であり、まだそこまでの関係性は出来ておらず		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のミーティングで職員からの気づきに対して検討している。ご利用者のニーズを優先させようと話しているが、職員の都合が優先される場合もしばしばある	日頃の様子から利用者の思いを検討し、家族関係者からは面会時や電話で意見を聞いて、担当者会議に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の情報以外は、面会時にご家族に聞き取りをするようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が支援する中で各自把握は出来つつあるが、それが書面となって共有出来てはいない		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン立案前は本人、家族の意向の聞き取り、その後、職員の意見を聞き取りした後にプラン原案を作り、担当者会議にて検討している	利用開始にあたっては暫定的プランを作成し、状況の変化に応じて変更するようにしている。3か月に1回モニタリングを実施し現状に即した計画になるように努めている。	日々の記録を検討することで、適切なモニタリングに繋げ、より実態に即した介護計画の作成に取り組んでいただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残しているが、考察や気づきがあまり記載されていない記録になっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化に合わせて柔軟に対応していると考えますが、サービスの多機能化の部分は現在は取り組んではいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しきれていないと感じるが、近隣施設を活用している。読書好きの方と図書館に本を借りに出かけたり、昼食のラーメンを出前をとったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際にはサマリを準備し、事業所での様子を報告している。また、緊急時はかかりつけ医による診察の体制も整備している	かかりつけ医を継続しているが、月に1回往診可能な協力医も確保している。夜間や緊急時の対応も可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所で看護師を採用し、日々の様子を把握できる環境にある。また、ミーティング等にも参加し、他職種連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には地域連携室と連絡を取り合い情報共有を行っているが、事前に備えて関係づくりを行ってはいない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針は整備しており、事前の説明、意向確認も行っているが、開設一年目であり、看取りを行えるだけのスキルはまだない	常時医療行為が必要な場合は難しいが、できるだけ希望に叶うように看取りにも取り組んでいく意向を持っている。母体の法人に特別養護老人ホームがあり、全体としての対応も可能になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、心肺蘇生の内部研修を実施。夜間の緊急時対応マニュアルも整備し、見えやすい所に貼ってある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を実施している。夜間想定では地域の方の応援要請もいらしてあるが、地域を巻き込んだ訓練は未実施	2施設合同で避難訓練を実施している。消防団の方に会議への参加を依頼し夜間の協力はお願いしている。夜間職員2人での対応と地域協力者等の役割分担を明確にすることで地域の協力を繋げるように進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設後しばらくして言葉使いが乱れていると感じた為、言葉使いに対する研修を実施。その後接遇委員会を立ち上げ、マナーの向上に努めている最中である	ケアの基本として言葉使いの研修をしたり、接遇委員会でも取り上げている。排泄や入浴介助の際にも注意するようにしている。	幅広い内容の研修を積み重ねることで、全体のレベルアップに繋がるような取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉使いの最後を〇〇ですか？〇〇でしょうか？と疑問形にすることで相手が意見を言いやすいように意識しているが、全職員で統一されてはいない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活リズムに合わせる為に、職員の日課表は作成せず、ご利用者に合わせて日課を組み立てるよう意識して支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各部屋に洗面台があり、起床時には身なりを整えられるように整備してある。また意向があれば化粧品を購入して頂き、化粧をするお手伝いも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事作りにはご利用者に協力を依頼し、味付け等も行ってもらっている。また、ホットプレートを活用し、目の前で調理を行う機会も積極的に設けている	食材を切ったり味付けをしたり、積極的に調理に関わる方が3人おられる。栄養士がたてた献立に合わせて、地産地消で3食作っている。ダイルームで音や臭いからも楽しめるようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録を残し、栄養状態の把握を行っている。また、毎日の献立は管理栄養士が作成し、栄養全般の相談も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っているが、拒否もあり出来ていない場合もある。義歯洗浄などは自分で落とし切れていない場合は、後で職員が行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にトイレに案内する時間や間隔を変えて案内している。また、なるべくトイレを利用するように案内している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在は便秘に対する取り組みは行っておらず、頓服の下剤の処方がある方は、それを利用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはならず、入浴の意向を伺いながら入浴の支援を行っているが、夜間滞の入浴には現在は人員配置の都合で対応出来ていない	週3回くらいを目安に誘っている。車いす使用の方もいるが、機械浴で1対1の対応でゆっくりくつろげるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の習慣とADLを考慮し、ベッドか量を選択してもらっている。また、空調も管理して安眠しやすい環境を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は看護師が管理しており、スタッフは配薬と内服介助を行っている為、一人ひとりの内服薬や副作用についての研修は行っていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴から、個別のレクや外出等の支援をケアプランに組み込み、外食や晩酌などの楽しみの部分の機会も確保している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夜間以外は施設は行わず、希望があれば散歩に出られるようにしている。普段行かない場所はケアプランに組み込み、家族や職員の付添いの元で出かける調整を行っている	天気の良い日には玄関前の東屋でお茶したり、白壁の風景を見ながら散歩したり、外食やコンビニへの買い物など、2台の車に分けて数名ずつ出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や買い物外出で自分の意思で購入する機会を設けているが、金銭管理は現在は自己管理しておられる方はなく、事業所管理となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らの意思で電話や手紙を希望される方がおられなかったため、実施したことはない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りやカレンダーをご利用者と一緒で作成し季節を感じられる環境づくりを行っている	木が多く使っており木の香りがするくつろいだ空間がある。前には白壁の建物を眺め、裏には山があり、草木からは常時季節感が味わえる。比較的近い位置に道路が走っているも、騒音は少なく落ち着いた雰囲気漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にテーブル席、ソファー、こたつと、空間を分けて配置し、一人や仲間で過ごせる環境を整えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように、必要最低限の物しか準備しておらず、入居後に本人や家族が部屋に好きな物を持ち込み設えを決めてもらうようにしている	畳の部屋の方が2名。今まで使用していた思い入れのある物の持ち込みを勧めているが、あまり多くを持参するケースは少ない。ここでの写真を飾ったりして落ちつけるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋は本人の了解の元で表札を掲げている。トイレも分かりやすいよう表札や目印を準備し、見て分かるような環境づくりをしている		